

宇都宮市立東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思いますか」では、肯定割合が97.2%で全国平均を10.3ポイント上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定割合が100%で全国平均を7.8ポイント上回っている。家庭や学校で積極的に児童の良いところを認め、それを伝えていくことで、自分の長所や価値を認識し、自己肯定感を高めることができていることがうかがえる。今後も家庭と連携を図り、全職員で児童を見守っていく意識を高くもち、さらに信頼関係を築いていく。

○「読書は好きですか」では、肯定割合が80.6%で全国平均を10.9ポイント上回っている。また、「学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」では、「1時間以上」の割合が27.8%で全国平均を12.6ポイント上回っている。読書を奨励する教育環境が、日常的な読書習慣につながっているものと思われる。今後も児童が、本から幅広い知識や教養を身に付け、思考力や想像力を育んでくることができるよう、意図的に読書に触れる時間を設けていく。

○「ICT機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐに調べることができる」の肯定割合は97.2%で全国平均を8ポイント、「ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」の肯定割合は88.8%で全国平均を11.2ポイント上回っている。ICT機器(一人一台端末)の活用が、児童一人一人の学習進度や理解度に応じた学習を可能にし、個別最適化された学びの促進につながっていることがうかがえる。

●「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」では、肯定割合が55.6%で全国平均を13ポイント下回っている。発表する際の基本の構成や伝えたい内容をより効果的に伝える表現方法の工夫について、教科を問わず繰り返し指導する。

●「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか」では、肯定割合が66.7%で全国平均を15.1ポイント下回っている。国語の授業において、語彙や文法指導を行うとともに、目的や相手意識を明確にし、それに合わせて表現を工夫するという、状況に応じた柔軟な表現力の育成につながる指導を行っていく。

●「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか」では、肯定割合が41.7%で全国平均を21.5ポイント下回っている。また、「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり、問題を見いだしたりしていますか」は、肯定割合が47.2%で全国平均を21.7ポイント下回っている。学習で得た知識が社会や日常生活の中でどのように役立っているのかが結び付くような指導をする。さらに、自然現象や身の回りの出来事に対して、科学的な視点で物事を捉えることができるように、授業の中で児童が積極的に疑問をもち、仮説を立てて検証できるような観察・実験を取り入れた授業を行っていく。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」では、「1時間以上」の割合が41.7%で全国平均を12.3ポイント下回っている。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の線背に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」の「1時間以上」の割合は、5.6%で全国平均を13.6ポイント下回っている。家庭との連携を強化し、学校と家庭が一体となって学習環境を整備していく。

宇都宮市立東小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①主体的に取り組む、共に学び、楽しく分かる授業づくり ②対話的で深い学びを通して思考・判断・表現力を伸ばす指導の工夫 ③基本的学習態度と基礎・基本の確実な定着	①ICT(一人一台端末)の活用や児童の問いを生かす工夫 ②児童の発言を広げ、つなげるなど協働的な学びのある授業の工夫 ③学業指導の充実とAI型学習ドリルの有効活用	「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」では、肯定割合が86.1%で全国平均を8ポイント上回っている。また、「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか」では、7つの設問のうち、6つの設問で全国平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」では、肯定割合が55.6%で全国平均を13ポイント下回っており、相手に分かりやすく伝える力に課題が見られた。	・「伝える力」を意識した授業改善と他教科との連携を図っていく。	・基本的な発表構成を指導していくとともに、短い時間で自分の考えをまとめる機会を日常的に設ける。理科では実験結果の効果的な報告、社会科では調査結果のプレゼンテーションなど、各教科の内容と結びつけ、目的に合わせた表現方法を習得できるようにする。